



書評

[評者]

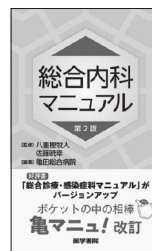
志水 太郎

獨協医科大学教授・総合診療医学

総合内科マニュアル 第2版

八重樫 牧人, 佐藤 暁幸 監修
亀田総合病院 編

●三五変型 頁 520 2021 年 3 月
定価: 3,080 円 (本体 2,800 円+税)
[ISBN978-4-260-03658-0] 医学書院刊



亀田総合病院の“あの”マニュアルの第2版が10年を経て出版されました。第一印象は「本当に手のひらサイズ」。500ページと聞くと厚い(熱い)印象ながら、院内PHSの厚さとはほぼ同じコンパクトさを保っています。値段も3,080円と読者フレンドリー、そのうえ、八重樫牧人品質、亀田品質というプロフィール。ここまでで、これはもうどう見ても買いのロジックとなります。そのほか、数あるなかからダイジェストで個人的なお薦めポイントを記載します。

このような病院発のマニュアルを見ると、そこで訓練を受けた医師達が思い出されます。個人的な印象ですが、一緒に職場で仕事をさせていただいたことのある亀田卒の医師たちのカルテは、とても整理されたものだった記憶があります。特に等しく皆同じであったと感じるのは、ヘルスマネジメントと題されたカルテ末尾の記載でした。本書では第32章の16ページ(pp.468-483)が、この予防医療トピックに充てられています。これは病棟でも外来でも重要で、“総合内科・総合診療”的な長期的・包括的ケアを達成するうえでの中心軸を構成する考え方です。そのような丁寧な診療をめざす思いが、このマニュアルに込められています。治療については参考文献とともに、GRADE分類に準じてできる限りの客観性がこの小さな本にびっしり詰まっています。ここまで丁寧にリファレンスや推奨度の方針が行きわたっていることを拝見し、著者の先生方、そして監修のお二方の先生の熱量、教育と医療の質への思い、また作成に伴うご苦労はいかばかりだっただろう

か、と思います。このような網羅的かつ米
国医療において標準化されている質担保の
教育が、国内の病院で行われているという
ことや、またその教育を院外の読者たちに
惜しみなく与えてくださる著者の太っ腹な
心意気にも感銘を受けました。

豪華な亀田OB/OGの執筆陣も本書の大き
な魅力です。岩田健太郎先生の「患者ケアの
目標設定(1章)」や「病歴聴取(2章)」、岸
本暢将先生の「身体所見(3章)」、八重樫先
生の「病状説明・ACP・コード(6章)」や細
川直登先生の「検査判断の原則(8章)」など
が一度に読めるマニュアルは世界に1つだけ
でしょう。「在宅診療の原則(11章)」、
「ソーシャルワークの原則(12章)」など、い
わゆる病院総合診療の観点での地域包括ケ
アを見据えた視点や「女性の健康(30章)」
の完備なども、網羅性があると感じます。

また、上記のようなソリッドで網羅的な
マニュアル的内容のなかにエッジもあるの
が本書の別の魅力です。「結果的に間違っ
てもよい。根拠、論拠で間違わないのが
大事である(p.7)」などの直言はスカッと
しますし、コードの確認や解剖承諾の具体
的な聞き方(pp.45-47)などは意外にありそ
うでなかった(確かにマニュアル的であり、し
かもアートな)内容で、かゆいところにも手
が届きます。

本書に込められた魅力はまだまだ語り切
れませんが、初版で提示された国際標準+
日本・亀田病院のアートの旗を継承されて
さらに発展された、抜群に濃度の高い総合
内科マニュアルが誕生したと感じます。